

實相寺 花園会報

平成三十年
五月一日発行
発行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<http://www.jissouji.net>

第110号

「青山緑水」
せいざんりよくすい

筆 南禅寺管長

中村文峰老大師（昭和五年）

この軸をご紹介するのは何回目かなのですが季節に合うのでご容赦を。住職が道場に入門した年に老師に書いて貰いましたが、気づけば早三十二年が経ちました。常緑樹の葉が入れ替わることを「ゆずり葉」と言います。新緑が美しいこの時期も、実は落葉の季節なのです。山々が青く美しいのは新陳代謝しているからだ、感慨深いものがあります。



本堂幕と玄関幕が新調されました

三月号で本堂幕と玄関幕のご寄付を募ったところ、おかげさまで本堂幕は木太町の天野忠義様、玄関幕は千葉県松戸市の池添善山様よりご寄付頂くことが出来ました。思いがけず早速のお申し出がありましたので、四月のお施餓鬼にも間に

合わせる事が出来ました。紙面にてご披露申し上げますと共に、天野様と池添様には厚く御礼申し上げます。

尚、その他の会員様からもご心配の連絡を頂きました。皆様のご芳情に心より感謝申し上げます。有難うございました。

随処ずいじょに主しゅと作る④

「おかげさまの心

―いつでもどこでも仏さま 随処ずいじょ作主しゅ―

二月号より縷々述べて参りましたが、これまでの要点を一度整理してみます。

「随処に主と作る」とは？

(一)主と作るとは、いつでもどこでも変わらない個性を主張することではなく、周囲の状況に柔軟に対応すること。

(二)自分の立場や年齢によっても、その時々生き方があるのではないか。

(三)主と作る秘訣は、いたずらに未来を憂いたり、過去の自分にとらわれることなく、目の前のことに集中し今やるべきことに専念すること。

この様なことに心掛けることが、随処

る必要があるのです。

昨年暮れ、東京都台東区にある浄土宗光照院の副住職、吉水岳彦師の話を聞く機会がありました。吉水師のお寺はいわゆる山谷に近く、幼い頃から路上で寝る人などをよく見かけたと言います。周囲の大人からは「ああいう人は怠け者だから、好きで路上で暮らしているんだ。」と言われ、長年そう思っていたそうですが、縁あって路上生活者を支援する活動に参加してから考えが変わったそうです。

「東海道新幹線の橋脚は殆ど自分が作った」、「東京オリンピックの代々木競技場は俺が建てた」などと話す人達に出会い、多くの路上生活者がかつて真面目に働き、日本の高度経済成長を支えてくれたこと。

に主と作る人です。さらに臨済禅師は「随処に主と作れば、立処皆真なり」と仰っています。「真」とは真実、悟りの境地であり、自分の中にある仏心に目覚めることです。その結果「いつでもどこでも仏さま」という年度テーマとなりました。

一方で『白隠禅師坐禅和讃』には「衆生本来仏なり」とあります。「何も努力して仏に成らなくても、そのままでもいいじゃないか」という意見もあるでしょう。

もちろん「そのまま」であればいいのですが、「幼子のしだいしだいに知恵づきて仏に遠くなるぞ悲しき」と古歌にもあるように、生まれたまま、そのままでは居られないのがお互い입니다。だからこそ時々は自らを省みて、心の故郷に立ち返

ところが体を壊したり、会社が倒産したり、誰もが何らかの事情で路上生活を余儀なくされているのであって、何も好き好んで路上で暮らしている訳では無いことを知り、「みんな自分と変わらない同じ人間なのだ」と痛感したそうです。

そんなある日、一人の路上生活者が亡くなり、斎場に弔問に出かけ大変ショックを受けたそうです。その方のお棺は人間の斎場でも、ペット用の斎場でもなく、掃除道具などを保管する物置に安置されていたそうです。その時、吉水師は「同じ人間なのに、ただお金がないというそれだけの理由で、こんな扱いを受けないといけないのか」と悔しくて、みんなで号泣したと話していました。